授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2513 号

A comparison between effects of amenamevir and famciclovir on intensities of acute pain and the incidence of postherpetic neuralgia in adult patients with herpes zoster

二種の抗ヘルペスウイルス薬アメナメビルとファムシクロビルの帯状疱疹急性期疼痛強度と帯状疱疹後神経痛発生に及ぼす効果の比較検討(後方視的観察研究)

影嶋 優香子（かげしま　ゆかこ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、2 種の抗ウイルス薬アメナメビルとファムシクロビルの急性痛鎮痛効果と帯状疱疹後神経痛(PHN)発生率を比較した論文である。傾向スコアマッチング(PSM)後の NRS 疼痛スコアはアメナメビル群でファムシクロビル群より治療開始 7 日後と 2-3 週後で低かった(p=0.0174,p=0.0130)。発症 3 日内早期受診患者では PSM 後もアメナメビルとファムシクロビルで疼痛スコアは差がなく、3 日より後の晩期受診患者のみで PSM 後アメナメビル群で 7 日後と 2-3 週後の NRS 疼痛スコアが低く(p=0.0031,p=0.0110)、晩期受診患者でのみ、アメナメビルの鎮痛効果が優れる事が示された。薬理学的作用機序の差がこの差に影響したと考察された。また、2-3 週後の NRS>0.9 の疼痛残存が PHN 発症の強い危険予測因子となり、2-3 週後の有痛者では無痛者より PHN 発生リスクが増す事が示された(オッズ比 25.6, p<0.00001)。全体では両薬剤群の PHN 発生率に差はなかったが、晩期受診患者では PSM 後アメナメビル群の方が PHN 発生の低い傾向が見られ(3/46 対 9/46, p=0.0633)、アメナメビルの PHN 予防効果が勝る可能性は否定出来ない結果だった。アメナメビルの PHN 予防効果については追試が必要だが、本論文は、アメナメビルがファムシクロビルより急性痛の鎮痛効果が高い事、ただし、発症 3 日以内の早期受診患者では両剤の鎮痛効果に差がなく、発症 3 日より後の晩期患者でおいてのみアメナメビルの鎮痛効果が高い事、また、2-3 週後の急性期晩期の疼痛残存(NRS>0.9) が帯状疱疹後神経痛の強い予測因子となる事など、初出の知見を複数含んでいる意義の高い論文であり、よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。